

第2回とちぎ夢大地応援団活動報告(令和2年10月31日実施)

佐野市 多田地区「刈り払い作業」

佐野市多田地区で令和2(2020)年度第2回「とちぎ夢大地応援団活動」を行いました。今回は、とちぎ夢大地応援団員他、地元柴田保全会から5名、ふれあい広場から2名、三好応援団から4名が参加しました。

応援団活動は、農村部と都市部の方々の交流の場であると同時に農作業や農村資源の保全活動を支援し、農業・農村の果たす役割の理解促進を図る事などが目的です。

この日は、「柴田保全会」が受け入れ組織となり、耕作放棄地で「刈り払い作業」に取り組みました。

多田地区は過疎化、高齢化が進んでいて、将来の農業の担い手が少ない地域です。同会は地域の環境が荒れないように、この保全活動などを行っています。

参加者は同会の毛利会長から、農地の近況などを聞いた後に、作業に取りかかりました。

昨年度は、台風の通過に見舞われ、思うように活動ができなかったことや、コロナ禍により、春期の刈り払いができなかったことも有り、農地は大きく荒れ、伸びきった葎に、蔓状の植物が絡みついた状態で、さらに昨日までの雨天により、足場がぬかるんでいました。

毛利会長は「このような活動を継続的に行うことで、地域の住民の気づきのきっかけになれば」と期待を寄せました。



▲秋晴れに恵まれ、刈り払い日和となりました。作業がはかどります。



柴田保全会毛利会長から、近年の近況報告がありました。

荒天や、コロナ禍など、思うように保全活動ができなかった事を報告していました。ただ、本日の活動で、今後の弾みとなればと期待を寄せました。



はじめに記念撮影を行いました。写って居ない方もおられますが、A会員13名、地元保全会から11名が参加しました。

天候に恵まれ、さわやかな秋晴れの中、作業に専念することができました。



およそ、4 haの休耕田で一斉に刈り払い作業がスタートしました。刈り払いがベテランの方から、本日はじめて、機械を扱う者まで、多彩なメンバーです。

参加した皆さんは、このような耕作放棄地が少しでも減らせるよう、苦勞を惜しまず、ひたすら機械を回し続けます。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、

午前中だけの作業でしたが、ここまで、刈り払いを行うことができました。

また、通常行う意見交換会や楽しい昼食もなくお弁当の配布に留め解散しました。